

[年度] 平成28年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 甘長トウガラシ有望系統の育成・選抜

[担当機関名] 農業試験場栽培部、那賀振興局農業水産振興課 [連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 野菜

[分類] 研究

[背景・ねらい]

甘長トウガラシ‘松の舞’（図1）は岩出市周辺で栽培され、「ねごろ大唐」の名前でブランド化に向けた取り組みが行われています。しかし、‘松の舞’は夏季に果実の下部から黒く変色する尻腐れ果（図2）が多く発生し、生産拡大およびブランド化の障害となっています。そこで、尻腐れ果の発生が少ない甘長トウガラシ有望系統の育成・選抜を行います。

[研究の成果]

1. 平成24年に甘長トウガラシ、ピーマンを親として、F1交配系統を作出しました（表1）。平成27年に作出した36系統の中から、果実の品質が高く、尻腐れ果の発生が少ない4系統を選抜しました（図3, 4, 5, 6）。平成28年に収量と果実の形状に優れた①-Kを、有望系統として選抜しました。①-Kは‘松の舞’と比較して、果実の先端は細く、果皮の厚みはやや薄く、果色はやや薄くなります。
2. 総収量および秀品収量は①-Kが最も多く、‘松の舞’と同等程度でした（図7）。
3. 尻腐れ果の発生は、いずれの系統においても‘松の舞’より少なくなりました（図8）。
4. 低温期のアントシアニンによる着色果の発生は、①-Kが‘松の舞’と同等程度でした（図9）。

[成果のポイントと活用]

1. 収量および秀品収量は‘松の舞’と同等程度です。
2. 高温時における尻腐れ果の発生は‘松の舞’よりも少なく、低温時のアントシアニンによる着色果の発生は‘松の舞’と同等程度です。
3. ‘松の舞’と同様に、高温時の乾燥により辛み果が発生します。
4. 食味なども含め、普及性を判断していく必要があります。

表1 交配の組み合わせ

種子親	花粉親
①伏見甘長	A: 高濃加ワオルアワタ-
②万願寺とうがらし	B: 伊勢ピーマン
	C: 平安栄光
	D: 石井みどり
	E: 昌介
	F: 西洋早生ピーマン
	G: 魁
	H: 大王
	I: 高倉極早生
	J: 極早生大獅子
	K: 山西茄門
	L: R0039-1-1
	M: 海花3号
	N: 緑光早生
	O: ポルガルスキー
	P: 極早生秀緑
	Q: 早生上向ピーマン
	R: 三重みどり



図1 ‘松の舞’



図2 尻腐れ果

注) 品種‘松の舞’  
尻腐れ、赤丸部分



図3 交配系統①-K



図4 交配系統①-L



図5 交配系統①-N



図6 交配系統②-L

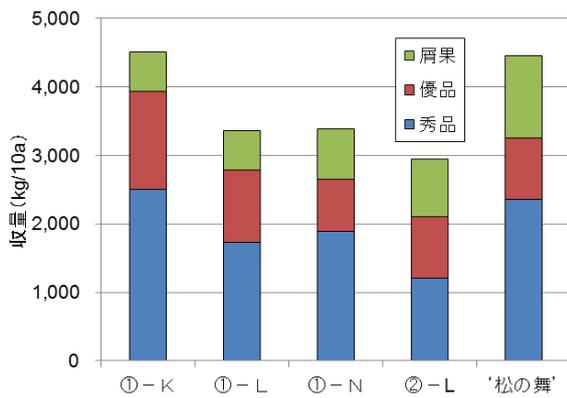


図7 収量と品質構成

注) は種：平成28年2月8日  
 定植：4月15日  
 栽培概要：畝幅200cm、株間80cm、1条植え、主枝4本仕立て  
 収量調査：5月27日～11月11日  
 調査方法：収穫した果実を、秀品（形状良好で曲がりが2cm未満）、優品（秀品に次ぐもの）、屑果（尻腐れ果、アントシアニンによる着色果、エビ果、その他（虫害等））に分類

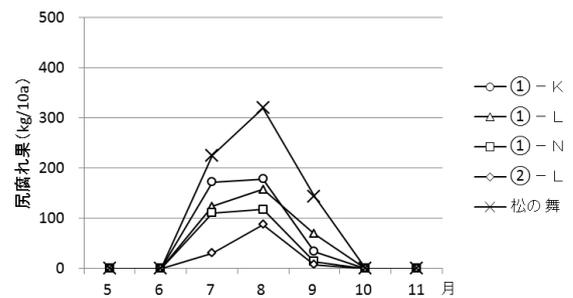


図8 尻腐れ果の発生

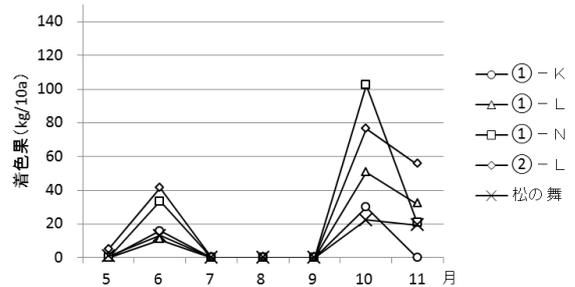


図9 着色果の発生

[その他]

予算区分：県単

研究期間：平成24～28年

研究担当者：矢部泰弘、奥野憲治、千賀泰斗

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可